



図書館だより

宇都宮市立陽北中学校
令和7年 3月号



3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。これからも読書に親しんで下さい。皆様のご活躍を心から願っております。在校生のみなさんも心に残る本との出会いはありましたか？これからも、様々なジャンルの本を読んでみましょう。



令和6年度 陽北中貸出状況！

集計期間 2024.4月 ~ 2025.2月



重要！ 大切なお知らせ



1・2年生へ
ご協力よろしくお願いします！
図書館で借りた本は
3月17日(月)までに
必ず返してください。



学年別貸出冊数ランキング



	1年生	2年生	3年生
第1位	1-3 821冊	2-1 1,016冊	3-5 241冊



ベストリーダー！（貸出が多かった本）



☆『成瀬は天下を取りにいく』	宮島 未奈/著
☆『かがみの孤城』	辻村 深月/著
☆『わたしの幸せな結婚』	顎木 あくみ/著
☆『薬屋のひとりごと』	日向 夏/著
☆『変な家』	雨穴/著
☆『夜が明けたら、いちばんに君に会いにいく』	汐見 夏衛/著
☆『羊と鋼の森』	宮下 奈都/著
☆『僕の永遠を全部あげる』	汐見 夏衛/著

☆『ナカスイ!』	村崎 なぎこ/著
☆『君はきっとまだ知らない』	汐見夏衛/著
☆『あの星が降る丘で、君とまた会いたい。』	汐見夏衛/著
☆『52ヘルツのクジラたち』	町田 そのこ/著
☆『海に願いを風に祈りをそして君に誓いを』	汐見夏衛/著
☆『君が落とした青空』	櫻 いいよ/著
☆『神様のカルテ』	夏川 草介/著
☆『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』	汐見夏衛/著



R6 年度多読賞

☆受賞者名は図書館カウンター前に掲示しておきます。気になる人は図書館へどうぞ！

学校図書館貸出冊数

令和6年4月～令和7年2月28日

学校図書館利用者年間貸出冊数が50冊以上の人
今年度の受賞者は24名です！

読書記録ページ数

令和6年4月～令和7年2月報告分

「読書記録」報告冊数が1万ページ以上の人
今年度の受賞者は14名です！



多読賞 第1位

2年 〇〇 〇〇さん
321冊

おめでとうございます！

学年別該当者数

1年生… 13名
2年生… 9名
3年生… 2名

多読賞 第1位

3年 〇〇 〇〇さん
34,264 ページ

おめでとうございます！

学年別該当者数

1年生… 8名
2年生… 5名
3年生… 1名

新着図書案内！

「陽北 Library」で見ることができます。

2025 年 1 月以降に入った本の案内です。それ以前の本は、授業から入って購入図書一覧をご覧ください。

新機能 1：「いいね」のボタンが押せます。

新機能 2：コメントも書くことができます。（ただし、不適切な言葉は削除します。）



本の紹介をします！



『本を守ろうとする猫の話』 夏川草介 小学館 913/ナ

林太郎は高校生。祖父と二人で暮らしていましたが、祖父が突然亡くなってしまいます。それまで祖父が営んでいた古書店にこもってひたすら本を読む生活をしていました。本は、どこへでも連れて行ってくれます。ある日、閉店後の書店に、トラネコが現れ、「お前の力を借りたい。」と言ってきました。そのトラネコと一緒に出かけ、謎の世界で本に固執している人物と対峙をします。祖父が言っていた「本には大きな力がある」これはどういうことか。本を読むと世界が広がり、知識や想像力もつきます。林太郎は、ある境地にたどりつき、本を読むことで何が得られるのか……。本について考えさせられる物語です。

『地雷グリコ』 青崎 有吾 KADOKAWA 913/ア

高校の文化祭は 50 以上の団体が出店します。その中でも屋上は一番人気です。なぜなら屋上は文化祭の時だけ解放され、しかも 1 団体のみ使用可能だからです。その場所を決める方法が地雷グリコ。地雷を踏むと 10 段下がらなければなりません。対戦者は、生徒会代表の桐先輩。1・2 年とも優勝しています。対する挑戦者は 1 年生の真兎。果たしてどちらが勝のでしょうか。他もお馴染みの遊びで勝負がきまる仕組みとなっています。

『小公女たちのしあわせレシピ』 谷 瑞恵 新潮社 913/タ

小さな町でホテルを営業している家族とそこに宿泊していたメアリーさんの物語。メアリーさんはホテルに長く宿泊していました。そのメアリーさんが亡くなってしまいます。残されたものはスーツケースに入っていたイギリスの児童書。メアリーさんが持っていた本が、お菓子のレシピと共にこの町の親しい人たちの手元へ残されていました。ホテルの経営者の娘、つぐみの部屋にも「小公女」のぶどうパンのレシピが挟まれていつも間にか置かれていました。不思議なメアリーさんの人柄と家族経営のホテルが繋がり、美味しいお菓子のレシピと共に童話の中へ誘われるようなとても温かい物語です。